

## 6月定例会号

市議会だよりは2月、5月、8月、11月の第2土曜日(定例会号)、1月1日(新年号)に発行します。次回は9月定例会が開催予定です。



## 6月定例会

# 市長所信表明に対し各会派が質問 市長の給料及び退職手当の特例に関する条例を可決

市議会は、令和4年6月定例会を6月10日から7月1日まで開催しました。6月定例会では、初日に、3月の市長選挙で当選した田中甲市長が所信表明演説を行いました。続いて、

市長が提出した、「市長の給料及び退職手当の特例に関する条例の制定について」、「市川市クリーンセンター余熱利用施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について」、「市川市消防団員等公務災害補償条例の

一部改正について」、「令和4年度市川市一般会計補正予算(第2号)」などの議案10件及び報告19件を一括議題とし、これに所信表明を含めて、6会派が代表質問を行いました。また、議員からは、「国民の祝日

「海の日」の7月20日への固定化を求める意見書の提出について」などの発議2件が提出されました。その他、請願の審議や、17人の議員による一般質問を行いました。

本会議での採決の結果、市長提出議案10件をいずれも原案通り可決した他、専決処分につき承認を求める報告6件をいずれも承認しました。また、議員提出議案については、決議案1件、意見書案1件の計2件をいずれも可決しました。その他、請願1件を不採択としました。

他にも、議員の資格決定の件について採決を行いました。議員資格を有すると決定しました。(詳細は7面に掲載) また、3月27日の市議会議員補欠選挙に当選したさとうゆきの議員が建設経済委員に選任されました。(代表質問は2~4面、一般質問は5~6面、審議結果一覧は8面に掲載)

市議会は、令和4年7月臨時会を7月12日の1日間、開催しました。7月臨時会では、副市長の選任についての議案1件と、専決処分につき承認を求める報告1件が提出され、これらに対し議員2人が質疑を行いました。本会議での採決の結果、市議会は、議案の1件を同意し、報告1件を承認しました。また、議員より、決議案1件が発議され、市議会はこれを可決しました。(審議結果一覧は8面に掲載)

## 7月臨時会を開催

### 松丸多一氏を副市長に選任

市議会は、令和4年7月臨時会を7月12日の1日間、開催しました。7月臨時会では、副市長の選任についての議案1件と、専決処分につき承認を求める報告1件が提出され、これらに対し議員2人が質疑を行いました。本会議での採決の結果、市議会は、議案の1件を同意し、報告1件を承認しました。また、議員より、決議案1件が発議され、市議会はこれを可決しました。(審議結果一覧は8面に掲載)

## 議員の表彰

### 全国市議会議長会

在職15年表彰 清水 みな子  
秋本 のり子  
かつまた 竜大

## ◆市長所信表明

健康寿命日本一、デジタル地域通貨、学校給食費の無償化などを柱とした、市長の所信表明が行われた。(要旨)

最も重視するテーマとして掲げるのは健康寿命日本一である。誰もが健康上の問題で日常生活が制限されることなく、ハツラツと元気に暮らし、心の健康と体の健康のバランスがとれた、活力あふれる生涯を送れることを願っている。そのためには生活習慣といった個人の健康管理のみならず、都市基盤が整備され環境にも配慮した「まちの健康」も一体的に捉える必要がある。

選挙公約を実現する前に、まず優先するべき喫緊の課題は、新型コロナウイルス対策である。新型コロナウイルス対策に取り組みことで市民の生活と暮らしを守り、不安な日々を過ごす市民一人ひとりに寄り添いながら、実りある未来を手にするために、これから述べる7つの基本政策を総合的かつ多面的に取り組み、格差のないまち、健康寿命日本一のまちを目指す。この市川市が誰一人取り残さない、持続可能なまちになるよう全力でまい進していく。

### 【公約として取り組む施策(7つの基本政策)】

- ①行財政運営 タウンミーティングを開催し、「聞く市長」として市民の声と想いを様々な施策に反映させる。また、情報公開を徹底し、信頼を取り戻したい。そして、老朽化が進む公共施設の再整備が必要であることから、優先順位を正しく判断し、必要なところに必要なお金を正しく使う「選択と集中」をモットーに、メリハリのある財政運営を実施する。
- ②防災・防犯 災害の発生直後に地域住民の命を守るため、防災リーダーを育成し、地域防災力の向上を図る。また、民間の住宅や建物の耐震化、沿道の危険ブロック塀対策を実施し、市民の命を守る強靱なまちづくりを進める。さらに、事故や犯罪が起こりにくいまちにするために、まちに防犯灯や防犯カメラを増設し、市民の安全と安心を確保していく。
- ③まちづくり 無電柱化を進め、災害時に電柱が倒れたり電線が垂れ下がる危険性をなくし、安全な避難を確保する。地域経済を活性化させる新たな試みとして、デジタル地域通貨の仕組みや運用などについて「政策参与」を設置して研究を進めていく。利便性の向上や災害時の様々な情報の入手のため、全ての市の公共施設などにWi-Fiスポットを順次整備する。
- ④環境 ごみの問題について一人ひとりが当事者意識を持って向かい合える取り組みを進めるとともに、クリーンセンターの建て替えについては費用と機能を見極めた計画とする。ペットの飼い方やしつけ、不妊手術などの飼い主のマナーと責任について啓発を進め、また、ペットを手放すことになった場合でも、里親募集などにより殺処分ゼロを目指していく。
- ⑤文化・スポーツ コロナ禍で縮小していたイベントを充実させることで、地域に賑わいと活力を創出する。また、本市には貝塚などの史跡や駒形大神社の御奉謝や国府台の辻切りなどの伝統行事も時代を超えて受け継がれている。これらの地域資源を活用して、市川という地域に親しみや愛着を持ってもらえるよう、積極的な情報発信を行っていく。
- ⑥子ども・教育 「幼保・小・中」と切れ目のない支援体制、クロスフェード化を進め、新しい学校生活に上手く溶け込める環境づくりに努める。学校給食費の無償化に向けた関係機関との協議を進め、引き続き地産地消に取り組みほか、食の安全性を維持し、全ての子どもたちの食の環境を守り、全力で子育て施策、教育施策に取り組みしていく。
- ⑦保健・福祉 コロナ禍から脱却し、健康のために活動できる日々を取り戻すため、福祉タクシーやシルバーバスなど外出支援を充実し、高齢者や障がい者を含め誰もが分け隔てなく、ともに暮らせるまちを目指す。また、市民の命を守るため、正しい情報に基づいて予防接種を希望する家庭の子どもが確実に受けられるように支援を図る。